

大井九条の会

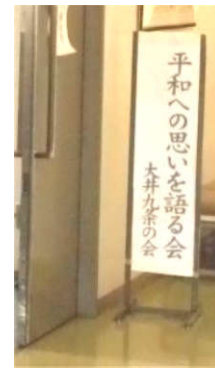
大井九条の会
事務局連絡先
83-2358 二上

日本国憲法 第二章 戦争の放棄
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

8月12日の定例会では

学習について行事で忙しくとも、九条の会の例会らしくやり方を考え続けようと話し合いました。また、8月行事の詳細について検討し、11月行事についても案を出し合いました。

8月26日「平和への思いを語る会」好評でした



8月26日午後2時より開かれた「平和への思いを語る会」は小学生も含め、54名の参加でした。寄せられた感想を後に書きますが、良い評価が目立ちます。またII部では今回初めてグループに分かれて語り合いをもち、グループごとの報告という形式をとりましたが、それも好評でした。直後に開かれたスタッフによる反省会でも参加者が主役の運営ができたのではないかの声があがりました。



以下参加者の感想です。紙面の関係ため、提出された方のご了解を得て、一部割愛、編集させていただきます。

- ① 戦争は絶対してはいけないと心の底から思いました。平和がいかに大切かどんなことがあっても平和を大切にしなければいけないと思いました。【71〜80歳】
- ② 平和を感じる事が出来る良い機会であると感じた。平和が第一。【71〜80歳】
- ③ 参加している方々の経験が聴けて良かった。この会で九条を守って行く意義がそれぞれの人の

次回定例会
9月18日(月)
14時〜16時
生涯学習センター
第3会議室

の体験を聞いたことによって、より強くなって行くと思います。

- ④ どの催しも心に響くものでした。「岸壁の母」良かったです。歌詞と踊りがあっていて、印象に残りました。【41〜50歳】
- ⑤ 大変感動しました。戦争は絶対反対です。【81歳以上】
- ⑥ きちんと定期的に活動をしていて、9条の会はすばらしいと思う。寂聴さんや大江さん、坂本龍一さんたちが亡くなって



しまった今こそ、続けたいといけない。体験に基づく紙芝居も良かった。・田澤紀子さん、お母様は100歳で亡くられたこと、すばらしい。・引き上げの体験はどれも怖ろしい。4歳、3歳の子を連れて、お母様の生きるための執念がすごい。シーちゃんは、せっかくお父さんが帰ってきたのに、どうなったのだろう。列車の運転手にワイロを渡したり同じグループの男に缶詰やリュックを盗まれたり、お母様のご苦労に胸がふさがれる。・岸壁の母のモデルの方、ずっと待っていたのに、しんじさんに一目会わせてあげたかった。【51〜60歳】

- ⑦ とても良い会でしたね【61〜70歳】
- ⑧ 体験者が少なくなる中で空襲や台湾、満州からの引き上げなど辛い経験を聞き、考えさせられ、良い機会を提供していただいてありがとうございます。【71〜80歳】
- ⑨ 林公子さんの体験談は良かったです。グループに分かれての討論は良かったです。(他の参加者と親しく話ができてよかったです)【71〜80歳】

◎戦前の日本は今のロシアと同じです。国内の反対者を取り締まり、虐殺。政策の異なる者の暗殺・テロ。悲惨さも大切ですが、賛同し協力した国民の精神構造も問われないうと・・・◎手作り紙芝居素晴らしいです。作ろうとする気力がすごい。大井町の人は老齢でも元気な人が多い。【71〜80歳】

忘れ物です。事務局にご連絡を

- ⑩ ◎戦前の日本は今のロシアと同じです。国内の反対者を取り締まり、虐殺。政策の異なる者の暗殺・テロ。悲惨さも大切ですが、賛同し協力した国民の精神構造も問われないうと・・・◎手作り紙芝居素晴らしいです。作ろうとする気力がすごい。大井町の人は老齢でも元気な人が多い。【71〜80歳】
- ⑪ 岸壁の母が一番良かったと思います。苦勞した悲惨な体験は生で聞けてとても感慨深いものがありました。何人も続くと少し気が滅入ってしまうので、日舞を見てほっとしました。戦争を知らない自分が、子や孫にどう伝えていけるのか考えさせられました。【61〜70歳】



- ⑫ 語る方々は報告 女性ばかりでしたが、当時の少年たちは？ 次回は是非少年たちの思いを伺いたいですね。【81歳以上】
- ⑬ 心に残る会でした。参加させていただいてありがとうございます。森谷緑さんの日舞もとても良かったです！ 子どもの参加も良かったです。「伝えていける」と思いました。【71〜80歳】
- ⑭ やはり戦争体験された方の話を聞けるのは、とても有難いことだと思いました。今年も開催ありがとうございます。【51〜60歳】
- ⑮ 今日は戦争について知れて良かった。小学校の勉強で「ちーちゃんのかげおくり」をこれからやるけどその前に戦争のことが知れて良かったと思った。【20歳以下】
- ⑯ 戦争が恐ろしいものだと思改めた。【20歳以下】
- ⑰ 実体験のお話はつら過ぎますが、今聞いておかなければと・思いました。できるだけ多くの体験を聞きたいと思いました。【61〜70歳】
- ⑱ 貴重な体験談も聞かせていただき感銘を受けました。【71〜80歳】

大井九条の会代表
田村嘉浩

78回目の終戦の日に寄せて 「戦う覚悟」ではなく「戦わない決意」を！

注目された「新しい戦前」発言

太平洋戦争が終わって、今日で78回目の終戦の日を迎えました。毎年8月は、6日の広島、9日の長崎、そして15日の終戦の日と続き、改めて戦争について考える機会です。昨年の2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が続く今年は、例年以上に戦争への危機感を抱かせる年になりました。昨年末のテレビ番組で、タレントのタモリさんが司会の黒柳徹子さんの「来年はどんな年になるでしょうか」という問いに対して、「新しい戦前になるんじゃないですかね」と答えたことが注目されましたが、多くの人の実感に近いのではないのでしょうか。

戦後の不戦の誓いを覆す

異次元の大軍拡

満州事変から15年にわたる日本の侵略戦争によって、310万以上の日本国民と2000万人以上のアジア・太平洋地域の人々が犠牲になりました。戦後日本は、戦争の惨禍を再び繰り返してはならないと誓い、「平和国家」として再出発しました。しかし、その誓いを覆すような事態が急速に進んでいます。

岸田政権は昨年末、安保三文書を閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有と5年間で43兆円という未曾有の大軍事計画を打ち出しました。5年後の2027年度には、防衛費を国内総生産（GDP）比2%にすることも明記し、まさに異次元の大軍拡です。岸田首相は閣議決定後の記者会見で、「私は、内閣総理大臣として、国民の命、暮らし、事業を守るために、防衛力を抜本強化していく」と語り、その目的を「日本の防衛」にあるかのように説明しています。しかし実際は、台頭する中国を軍事的に封じ込めようとするアメリカの戦略と一体化するためです。理屈とし

ては、アメリカとの同盟関係を強化することで抑止力を高め、そのことが日本を守ることになるということです。逆を言えば、日本が攻められていないのに、アメリカの起こす戦争に日本が巻き込まれることになりま

「台湾有事は日本有事」は本当か

安保三文書では、中国を最大の脅威と位置づけ、中国による我が国への侵攻の抑止を目的とした防衛力強化だとしています。しかし、安全保障の専門家は「現実問題として、日本がいきなり北朝鮮や中国から侵攻を受ける可能性は低い。日本が武力攻撃を受ける可能性があるとするれば、台湾海峡や南シナ海で、アメリカと中国との間で武力衝突が発生し、そ



の結果、米軍基地のある日本が攻撃を受ける事態なのです」と分析しています。よく自民党の政治家が「台湾有事は日本有事。日米で一緒に台湾を防衛しなければならぬ」という発言をしていますが、その場合、日本が攻撃対象になり大きな被害が発生することが、アメリカの戦略国際問題研究所の研究や長崎大学核兵器廃絶研究センターを中心とした研究で明らかになっています。

国民に「戦う覚悟」を迫る

安保三文書

安保三文書の「策定の趣旨」の最後に、次のように書かれています。「国家としての力の発揮は国民の決意から始まる。…本戦略の内容と実施について国民の理解と協力を得て、国民が我が国の安全保障政策に自発

的かつ主体的に参画できる環境を政府が整えることが不可欠である」。つまり、文書には「国民の決意」とありますが、この安保三文書の内容通りに実施されれば、国民に多大な困難や犠牲が伴うことを理解した上で自発的に協力する「覚悟」を国民に求めているということですか。この点について、岸田首相は「丁寧な説明」をしていないし、国民も「理解」していないのではないのでしょうか。

国民の命と暮らしを危うくする

麻生副総裁の発言

最近、自民党の麻生太郎副総裁が台湾で行った講演で「日本、台湾、米国をはじめとした有志国に、非常に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている。戦う覚悟だ」と発言し、さらに「金をかけて、防衛力を持つだけではダメだ。いざとなったら台湾海峡の安全のために使うという明瞭な意思を相手に伝えて、それが抑止力になる」と述べています。ずいぶん勇ましい発言ですが、当の中国やアメリカそして台湾は、有事が発生した場合のリスクの大きさを慎重な態度を取っているのに対し、戦争を煽る挑発的な行動です。毎日新聞の記事に、事前に首相官邸や外務省などと「入念に発言内容を調整していた」とありましたが、それが事実なら、日本がアメリカや台湾を巻き込んで、国民の命や暮らしを危うくする行為を、日本政府自身が行っていることになります。

今求められているのは

「戦わない決意」

我が国は、日本国憲法の前文で「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないやうにする」と決意しています。今求められているのは、「戦う覚悟」ではなく、戦争の惨禍を再び繰り返さないという「戦わない決意」です。